

質疑及び一般質問

令和6年5月30日、31日、6月4日に開催された質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。各議員の質問の中から1問をピックアップし、その要旨を掲載します。

CHECK! 白熱議論を映像でご覧ください!

下の各議員の横にある二次元コードから、掲載の質疑及び一般質問の映像を見ることができます

5月30日(木)



森 昌彦 自由民主党 (邑楽郡)



▶ 県立小児医療センターの移転について

Q 今後のスケジュール及び移転後の北毛地域における小児・周産期医療体制の確保について、県の考えと今後の取組を伺いたい。

A 知事

令和6年度中に「再整備マスタープラン」の策定を行い、令和9年度までに実施設計を終了させ、その後、建設工事に着手したい。北毛地域の小児救急患者を24時間365日受け入れる体制の構築や、妊婦の救急搬送体制の強化等について検討し、小児医療センターが渋川市から移転した後も、北毛地域の皆さまが安心できる小児・周産期医療体制を確保できるよう、全力で取り組んでまいります。

5月31日(金)



相沢 崇文 自由民主党 (桐生市)



▶ きめ細やかな防災情報の発信について

Q 居住地以外の場所にいる住民や県外からの観光客が速やかに避難行動を取るための防災情報の発信が重要であるが、群馬県の取組はどうか。

A 危機管理監

県や市町村では気象情報、避難及び避難場所に関する情報を、防災無線や防災アプリ等で住民に周知している。今後の取組として、県民には群馬県公式LINEアカウント「群馬県デジタル窓口」を利用して、居住地以外の市町村にいる場合にも防災情報を入手できるよう周知したい。また、旅行者等に対しては、観光ホームページに防災情報サイトへのリンクを貼るなど防災情報へのアクセスがしやすい工夫を行いたい。

6月4日(火)



秋山 健太郎 自由民主党 (太田市)



▶ 半導体企業の誘致について

Q 国では半導体産業の復活を目指し基本戦略を打ち立てたが、半導体企業誘致についての知事への考えを伺いたい。

A 知事

群馬県内には半導体のサプライチェーンを支える素材や製造装置の重要パーツを製造し、世界的にも大きなシェアを持つ企業が数多く存在しており、このような企業をしっかりと支援していくことが重要である。引き続き、半導体関連企業の大規模投資案件を呼び込んでいくため、自らトップセールスを行うほか、企業の投資を応援するスペシャルチームを作り、対応してまいります。



金沢 充隆 つる舞う (藤岡市・多野郡)



▶ 県立学校におけるエアコン整備について

Q 特別教室及び体育館のエアコン整備について、現状と今後の取組を伺いたい。

A 教育長

高校の普通教室はエアコン設置率100%であるが、特別教室は41%である。現在、使用頻度が高い教室319室に設置を進めており、令和6年度末において設置率57%となる見込みである。また、体育館は現在、設置率4%で極めて低い状況であるが、熱中症対策に加えて避難所利用時の環境改善にもつながることから、令和10年度までに全ての県立学校の体育館への必要性を検討し、順次設置を進めていく。



水野 俊雄 公明党 (前橋市)



▶ ネイチャーポジティブ(自然再興)^(※1)について

Q ネイチャーポジティブについて、県としてどのように捉え、取り組んでいく考えか伺いたい。

A 知事

群馬県は、県土の3分の2を森林が占め、豊富な水資源と多種多様な動植物が息づく生物多様性に恵まれた地域であり、これまでその自然環境を守り、育む取組を進めてきた。今後は、県の施策全般にわたりネイチャーポジティブの視点を加えていくとともに、企業には、経営活動にその考え方が組み入れられるよう変革を促し、官民共創で生物多様性と経済の好循環を実現していきたい。



金子 渡 つる舞う (渋川市)



▶ 介護福祉士修学資金貸付事業について

Q 外国人留学生を含め今年度介護福祉士養成施設に入学した全員に、介護福祉士修学資金を貸し付けることができる十分な財源があるか伺いたい。

A 福祉局長

介護福祉士修学資金貸付事業は、介護福祉士養成施設に在学中の学生に、修学資金を貸与し、卒業後、介護福祉士として県内事業所で原則5年間介護等の業務に従事した場合、返済を免除するものである。今年度の入学者全員が貸与を希望したとしても、対応可能な財源を確保できる見込みである。より多くの学生がこの制度を活用していただき、介護人材の確保につなげてまいります。



牛木 義 自由民主党 (甘楽郡)



▶ こんにやくの需要拡大に向けた取組について

Q こんにやく産業を守るために新たな需要拡大が必要と考えるが、県のこれまでの取組と今後の対応について伺いたい。

A 農政部長

群馬県は、大手企業と連携した商品販売や、新たな販路として積極的に輸出に取り組んでいる。県内大学では、こんにやくにも含まれる機能性成分で、尿路感染症の予防効果が期待されるマンノースや、肌の保湿効果が期待されるセラミドの研究が進められている。今後は、県内大学と生産者の意見交換の場を設けるなど、関係者の連携を深め、新たな需要拡大に向けて取り組んでまいります。



大林 裕子 自由民主党 (北群馬郡)



▶ インクルーシブ教育^(※2)を進める中での人材確保への支援について

Q 既に可能な教科においては共に学んでいるが、今後さらに充実するために、障害のある児童・生徒への十分な支援が重要と考えるがいかがか。

A 教育長

現在、各県立特別支援学校の教員を「専門アドバイザー」として位置づけ、小中学校へ助言等を行っているほか、必要に応じて医師や心理の専門家を派遣する支援体制を整えている。モデル校では、インクルーシブな授業づくり全体を統括する「カリキュラム・マネージャー」や、ボランティアを派遣する予定である。今後は、適切な相談体制や教員の配置についても検討してまいります。



亀山 貴史 自由民主党 (桐生市)



▶ 繊維産業の生産維持の支援について

Q 担い手確保や設備の老朽化など、繊維産業が抱える課題をどのように認識しているか。また、どのような生産維持支援をしているか伺いたい。

A 産業経済部長

織機メーカーの廃業などにより織機部品の不足が深刻化していることや、従業員の高齢化が大きな課題となっている。県では、産業技術センターの3D技術を応用した織機部品の設計図のデータ化、人手不足解決のためのAIを用いた織物自動検査装置の開発、人材育成のための実習指導等を行っている。今後は、産地や企業を技術面でサポートし、繊維産業を支えていきたい。



鈴木 敦子 リベラル群馬 (高崎市)



▶ ギャンブル依存症について

Q 有名人のギャンブル依存症が大きな話題になったが、群馬県への相談数等の推移と支援の現状について伺いたい。

A 福祉局長

こころの健康センターや保健所等への相談件数は、平成30年度の96人から令和4年度には142人へと、大幅に増加している。県では、相談や家族教室、普及啓発等に取り組んでいくとともに、ギャンブル依存症治療の中核となる「治療拠点機関」などの選定を行い、県民が身近な場所で適切な医療を受けられる体制を整備し、当事者やその家族に寄り添った支援体制を構築してまいります。



須永 聡 自由民主党 (伊勢崎市)



▶ 「埴輪王国ぐんま」に係る県の取組について

Q これまでの実績と今後の取組について伺いたい。

A 地域創生部長

これまで、埴輪の人気投票「HANI-1グランプリ」の開催、埴輪ゲーム「HANI-アプリ」の配信、埴輪ガイドブック「HANI-本」の出版や、民間事業者と連携した商品開発にも取り組んできた。今後は、埴輪を巡るツアーの実施や、子ども向けの企画などを検討したい。今年の秋に東京国立博物館で開催される埴輪の特別展を「埴輪王国ぐんま」をPRする機会と捉え、インバウンド観光にもつなげてまいります。



橋爪 洋介 自由民主党 (高崎市)



▶ ユネスコ「世界の記憶」である上野三碑の金井沢碑について

Q 金井沢碑が、令和8年に建立1300年を迎える。県として記念事業を実施してもらいたい。どうか。

A 知事

上野三碑は、1300年もの長い年月の間、地域の人々によって大切に守られてきた極めて重要な歴史資料である。群馬県としては、金井沢碑に刻まれた歴史的な価値について、改めて知ってもらうための記念講演会や、群馬県立歴史博物館での金井沢碑をテーマにした企画展の開催など、建立1300年記念事業の実施について検討したい。また、高崎市や関係団体と連携し、価値や魅力を発信していきたい。

※1 ネイチャーポジティブ…自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること
 ※2 インクルーシブ教育…障害の有無にかかわらず、全ての子どもがともに学ぶ仕組みのこと